

障がい者支援という仕事が魅力的であることを広く伝えていきたい

株式会社 Dare / 生活介護事業所 ラボ

兵庫県西宮市六瀬寺町1番1号 EXCEED 西宮 101 号室

2021年9月に長尾社長が西宮市に設立した『Dare』。その約半年後にオープンした事業所が『生活介護事業所 ラボ』だ。利用者様が自立した日常生活・社会生活を営めるよう、支援を行っている。本日は社長のもとをタレントの島崎俊郎氏が訪問し、お話を伺った。



interviewer
島崎 俊郎



代表取締役
長尾 紘奨



—まずは長尾社長の歩みからお聞かせいただけますか。

大分県出身です。妹が何十万人に一人という難病を患っている重症心身障がい者なのですが、子どものころは難病ということも分からず、地元には治療してもらえる病院がありませんでした。それを理由にここ兵庫県に引っ越してきたのが、10歳のころの話。学業修了後は福祉業界に進むことを決め、西宮の大手の社会福祉法人に就職しました。そこからずっと、この道一筋です。

—この道を選ばれたのは、やはり妹さんの存在が大きかったのでしょうか。

ええ、そうですね。私にとって障がい者は特別な存在ではなく、ごく近い存在でしたから。兄もいるのですが、兄は柔道整復師や鍼灸師などの道に進み、数年前からは高齢者福祉の分野でケアマネジャーをしています。障がい者福祉と高齢者福祉では違いもありますが、親しい業界なので、最近はよく情報交換もしているんですよ。

—就職された会社では、どんなお仕事に従事されたのでしょうか。

障がい者福祉の分野で、入所施設から通所施設、グループホーム、相談支援事業所など幅広く手掛けている法人だったので、私もその中で様々な仕事を経験さ

せていただきました。そして独立を考えるようになったのは、今から2～3年ほど前。利用者さんからのご相談をお受けしていた時、「高校を卒業してから行くところがない」という声をよく聞いていたんです。利用者さんの中にはパニックになって暴力を振るってしまったり、嘔み付いてしまったりする人も珍しくありませんが、その人のことを理解し、適切なコミュニケーションを重ねることで改善されることも多いんですね。けれども、何も支援がなければそのままになってしまう。高校を卒業した後、そういったケースに陥る人を少しでも減らしたいという思いから、自分で生活介護事業所を立ち上げることにしたんです。

—責任感がお強いんですね。独立されたのはいつでしょうか。

独立を決意してから、市役所への申請の出し方や運営方法など情報を収集したり勉強をしたりして、準備を進めました。準備が整った2021年に『Dare』を立ち上げ、そのさらに約半年後、『生活介護事業所 ラボ』をオープンしたのです。こちらの事業所には、私以外に6名ほどの職員がいます。3名は業界経験者ですが、その他の3名はボランティア経験程度の初心者。同業の多くは経験者を優遇していますが、当社は小さな事業所です

し、未経験の人も積極的に採用していく考えなんです。

—最後に、将来的な夢や目標をお聞かせ願います。

生活介護では18～65歳まで受け入れているので、利用者さんとは長いお付き合いになります。ですから、まずは会社を安定させ、長く続けていくことが大事だと思っています。その中で、この仕事の魅力を職員や地域の人に伝えていく所存です。そうすることで、障がい者支援が素晴らしい仕事だと理解してもらい、障がいのある人たちを支える人を増やしていきたいのです。

(2022年9月取材)



「福祉事業の魅力ややりがいを伝えていきたいと強く語ってくれた長尾社長の熱い姿勢に感銘を受けました。『福祉事業の現場は過酷』というような業界のイメージが変わり、担い手が増えていくことを私も願っています。頑張ってくださいね！」 島崎 俊郎・談